

11月8日(木)

午前中は広島市教育委員会の方々から講義を受けました。講義の冒頭部分では以前小学校で勤務され、インドの日本人学校でも勤務経験のある方が研修員の出身国の言語で挨拶をしてくださり、とても和やかな雰囲気の中で講義が始まりました。広島市独自のカリキュラムや小学校での英語教育の強化など、非常に興味深い内容でした。研修員は特に全国学力調査の思考力や数理運用能力を育む問題(避難マークになされた工夫は何か考える・2つのコインパークの看板からお得な方を選ぶ)に強い関心を抱いている様子でした。最後の質問コーナーでは、広島市と広島県の学力差(広島県の方が学力高いのはなぜか)や小学校での英語教育の目的、広島市での教育政策の効果など、たくさんの質問が飛び交い、有意義な時間となりました。

その後本通りのロッテリアで昼食をとりました。ザンビアからの研修員が偶然居合わせた年配の人と楽しく会話をしており、一同楽しく過ごすことができたと思います。

昼食後には袋町小学校平和資料館を訪れ、原爆投下後に壁に残された伝言を見学して行きました。遺族の方が学校の壁に残された伝言を探すために、塗装された壁を剥がすという一大工事を行っている様子のビデオを視聴し、研修員たちの心にも遺族の思いが響いた様子でした。



午後からは、東千田キャンパスにて中山昭彦先生(元校長)の講義がなされました。先生が経験された観音中学校での今では考えられないようなエピソード(校内で煙草を吸う・教師の暴力を振るうなど)から学校が更生した話を聞いて、研修員達も驚きを隠せない様子でした。荒れた学校に対して粘り強く生徒指導や校務分掌を教員全体で改善し、責任を平等化したエピソードには先生の言葉一つ一つからすごく苦勞を感じました。

